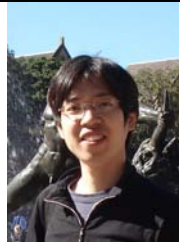


研究者総覧：宇都木 昭 (UTSUGI, Akira)

氏名	宇都木 昭 (UTSUGI, Akira)	
職名	准教授	
所属講座	国際多元文化専攻東アジア言語文化講座	
学位（専攻分野）	博士（言語学）・筑波大学	
メールアドレス	utsugi@lang.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	https://sites.google.com/site/utsakr/	
研究分野	音声学	
	音韻論	
	朝鮮・韓国語学	
現在の研究テーマ	方言音声の変異と変化	
所属学会	日本言語学会	
	日本音声学会	
	朝鮮学会	
	朝鮮語研究会	
	韓国音声学会	
	日本音韻論学会	
	社会言語科学会	
主要著書・論文	『朝鮮語ソウル方言の韻律構造とイントネーション』, 勉誠出版, 2013年。	
	“Merger-in-progress of tonal classes in Masan/Changwon Korean.” <i>Language Research</i> 45 (1), Seoul National University, pp. 23-42, 2009.	
	“Toward determining discreteness in downtrends of Japanese and Korean: an approach from a categorical perception experiment.” 『音声研究』第12巻第2号, 日本音声学会, pp. 30-42, 2008年。(Yoonshil Jeon氏・Heesung Kim氏との共著)	
	「音響音声学からの接近」, 野間秀樹(編)『韓国語教育論講座 第1巻』くろしお出版, pp. 331-350, 2007年。	
	「韓国人日本語学習者の日本語におけるフォーカス発話と中立発話の音声的・音韻的特徴」, 『音声研究』第8巻第1号, 日本音声学会, pp. 96-108, 2004年。	
自己紹介文	一般言語学専攻の大学院に進学したときは, 音声学と音韻論にまたがるような研究がしたいと漠然と考えていました。一方で,	

朝鮮・韓国語の一学習者として、自然な発音ができるようになりたいという気持ちから、この言語のイントネーションに興味を持っていました。その二つが結びつき、朝鮮・韓国語のイントネーションについて修士論文・博士論文を書くことになったのは、今にして思えば自然の成り行きだったのかもしれませんが。

一般言語学と朝鮮・韓国語という二つの方向性は、今も私の中にあります。一般言語学的な観点から、音声学と音韻論の関

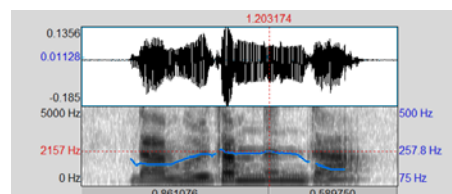
係、さらに形態論・統語論・意味論と音声の関係や、音声の変化と変異の問題に関心を持っています。関心を持ち、また実際に研究対象としている言語も、朝鮮・韓国語にとどまりません。その一方で、朝鮮・韓国語の音声学・音韻論の専門家として、この言語の音声にはまだまだ未解明の部分が多くあると感じていますし、また、音声教育に貢献しうるような研究の必要性も痛感しています。



『朝鮮語ソウル方言の韻律構造とイントネーション』

受験生へのメッセージ

朝鮮・韓国語の音声学・音韻論を中心として、以下の4つの分野で研究を行う学生を受け入れます。



音声の音響分析

- ①朝鮮・韓国語学
- ②朝鮮・韓国語教育
- ③日本語と朝鮮・韓国語の対照言語学的研究
- ④東アジア言語の音声学・音韻論

①～③においては音声学・音韻論以外の朝鮮・韓国語学の分野でもかまわず、また④においては朝鮮・韓国語以外であっても、東アジアの言語であれば研究対象とすることができます。ただし、私の専門分野との程度近いかによって、指導の方法が変わりうることを理解してください

	<p>い。</p> <p>大学院は学部とは大きく異なる世界です。その直接的なゴールは修士論文や博士論文を書くことですが、その作業を通じて期待されるのは、自立した研究者になることです。研究の世界を経験してみたい人は、ぜひ博士前期課程を受験してください。そして、2年間の博士前期課程を通じて研究者になるという思いを強くした人は、さらに博士後期課程に進みましょう。</p> <p>※私の個人ホームページ(https://sites.google.com/site/utsakr/)にも、受験生向けの情報を掲載しています。</p>
--	---

Last updated: 15 May 2013.